

いわて防災学教室

災害から学び、災害に備える



震災の教訓を伝える防災情報タオル

岩手大学地域防災研究センター特任助教

柳川 竜一

「防災情報タオル～絆・伝える～」をご存じだろうか？宮古市の自立更生会宮古アビリティセンターが津波危険の周知と大地震発生時安全な場所への避難を呼びかけることを目的に、2014年2月から販売を開始しているフェイスタオルである。

世の中に様々なデザインのタオルが販売されているが、このタオル製作の発端は、東日本大震災を体験した者達が宮古市内の居酒屋にて集い酒を酌み交わしている中で浮かんだのだそう。「かかしの会」と呼ばれる被災した沿岸住民と被災地域を支援した住民の有志は、東日本大震災の経験・記憶・教訓を活かし、地域住民や観光で沿岸を訪れたドライバー達に大津波から大切な命を自ら守るには何をどう訴えかければ効果的か議論を重ね、実用性を考慮したタオル製作に辿り着いた。国土交通省や気象庁等が公開している資料やWebサイト等で知識を蓄え、消防署・三陸国道事務所・漁協・役所等を訪れてはアドバイスを貰い、タオルへの情報掲載許可を取り付ける。伝えたい気持ち、情報は沢山ある。だが、増やせば増やすほど煩雑になってしまい一目見て何を伝えたいのか分からなくなってしまう。地域防災研究センターのメンバーも製作に関わらせて頂き、最終デザインが決まる迄に10カ月を要した。

本タオルで伝えたいポイントは大きく四つある。

①津波冠水区域を示す標識（設置場所にて過去津波被害があった事を示しており、実際の標識には冠水区域外までの距離が付記されている。津波来襲が危惧される場合、より安全に避難するためにはこのまま進んだ方が良いか、戻った方が良いか、距離

はどのくらいかを知る目安として把握しておく必要がある）

②岩手県沿岸のリアス式海岸（岩手県の海岸線は複雑に入り組んでおり、直線的な海岸線よりも高い場所まで津波が遡上する。東北地方太平洋沖地震に伴う津波では標高39.7mの痕跡高が測定された箇所もあり、安易にこの高さなら安全だと思込むことは危険だ）

③津波避難場所の標識（市町村が指定している最寄避難所への方向や距離を示した標識が設置されている。迅速かつ安全に避難所へ向かうための道しるべとして活用して頂きたい）

④地元の高校生がデザインしたキャラクターによる「避難」の呼びかけ（福祉施設・被災企業・地元の高校生によるコラボ商品から生まれたキャラクター「みなとちゃん」が避難の文字板を掲げ、津波への対処は「避難」が大原則であることをアピールしている。予想される津波の大きさにかわらず、避難する意識を持つことが大事だ）

本タオルを見かけたら、津波の教訓と制作に関わった方々の思いを感じ取って頂きたい。



防災情報タオル